

鳥羽市地域公共交通会議 会議録

| | |
|----------|--|
| 会議の名称 | 令和4年度第2回鳥羽市地域公共交通会議定期航路幹事会 |
| 開催日時 | 令和5年2月15日(水) 10:40~11:40 |
| 開催場所 | 鳥羽マリンターミナル会議室 |
| 議題 | 議題1 市営定期船の新船建造に係る協議 (新船建造に係る船舶要目の変更について) |
| 会議資料 | 事項書・席次表・委員名簿 議案書 議題1 市営定期船の新船建造に係る協議 【資料1】鳥羽市定期航路事業の船舶の概要 【資料2】船舶図面 【資料3】新船建造における船体の材質及び船型・大きさの変更について |
| 公開・非公開の別 | 公開 |
| 傍聴人の数 | 1人 |
| 出席委員 | 立花会長、中村委員、生川委員代理今西様、木下委員、高木委員、西川委員、山本委員、山下委員、高浪委員、福田委員 |
| オブザーバー | なし |
| 欠席委員 | 清水委員、小寺委員、寺田委員 |
| 事務局 | 定期船課 山本、西根 企画財政課 田畑、小崎 |

1. あいさつ

○事務局長

- ・開会
- ・配布資料の確認
- ・成立確認(委員13人中10人出席で成立)

○会長挨拶

本日は、ご多忙中にもかかわらず、先月の全体会に引き続いての定期航路幹事会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日ごろより市政運営にご協力をいただいておりますこと深く感謝申し上げます。

本日の議題は、昨年1月の航路改善協議会でお認めいただいた「第25鳥羽丸の代替船は、FRP単胴船を建造する」ということを変更することに関し、ご協議・ご承認をいただくものです。

ご忌憚のない意見をお聞かせいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議事

議題1 市営定期船の新船建造に係る協議

○事務局説明

議題は、船舶要目の変更についてであります。航路改善協議会が昨年航路改善計画の策定をもって解散しておりますので、法定協議会として位置づけられている地域公共交通会議定期航路幹事会に諮らせていただきます。

議案1に示すとおり、船舶要目の変更点は5点となります。

- 1点目は、船質で、FRPをアルミ材とします。
- 2点目は、船型で、単胴船を双胴船とします。
- 3点目は、容積で、50トンから60トンと75トンとします。
- 4点目は、航海速力で、20ノットを22ノットに変更します。
- 5点目は、船幅で、当初単胴船線を予定し5.7mとしていましたが、既存の双胴船と同クラスの6.7mとします。

—以下、資料に基づき船舶要目変更に至った経緯等を説明—
(説明要点)

これまで、アルミ材よりも FRP 材のほうが材料価格・メンテナンス面で優位性があったこと、双胴船よりも単胴船のほうが安価であったこと、定員数に関しても双胴船と同程度の席数を確保できること、単胴船でも法に定めるバリアフリー対応が可能であったこと、また、装備を追加することで双胴船と同程度の性能を実現できると判断し、FRP 単胴船で小型化していくとの方向性でしたが、情勢の変化や設計を進めていく中で、レジャー船等の小型船舶の建造需要が過熱していることにより市定期船の想定するサイズの FRP 船建造を受注できる造船所が見込めなくなったこと、単胴船ではフロアのフラット化が困難かつ座席数もバリアフリー席を含めても 70 席程度しか確保できないことなどが判明し、検討の結果、アルミ双胴船とすることが望ましいとの判断に至ったものです。また、小型化することで運航できる航路が限られてくることや、操船性・安定性の面でも双胴船の方が望ましいという点も考慮した上での判断となります。

また、建造費について、単胴船・双胴船とも物価高騰により船価が上がっており、単胴船と双胴船ではほとんど差がない状況で、5 億 5000 万円程度と見込まれます。

○質疑応答

(委員)

双胴船とすることによる懸念点はあるのか。

(事務局)

懸念は、当初と比較し大幅に増加した費用の点です。物価高騰によるもので、双胴船に限らないことではありますが、今回の船舶は、きらめき・かがやき 2 隻分に相当する建造費が必要と見込んでいます。

もともと単胴船に装備を追加することで双胴船と同等の安定性・操船性を担保できるとしていましたが、単胴船では船体中央にバリアフリー化のためのスペースをとる必要があり乗降部から客室フロアまでの間に数段の階段を設けざるを得ないこと、また、客席が前方部分にしか取れず 70 席程度しか確保できないと見込まれたことなどから、今後の高齢化等も見据え、費用的にも差がないのであれば双胴船とすべきとの判断によるものです。

(委員)

先日答志行きに乗った際も満員状態で立ち客が非常に多かった。柔軟に臨時船を出せるならともかく、新船にも相応の席数は必要である。

(委員)

アルミ船のかがやき・きらめきは 10 年近く経っているが、電蝕・腐食に懸念はないか。

(事務局)

細かいところの腐食は見られるが、船体主要部分では深刻な電蝕はみられない。また毎年腐食しているところには適正に処置している。造船所で聞き取りを実施したが、鳥羽市の航路での利用を想定すると船体よりもエンジンの損耗が先行するとの説明であったことから、材質がアルミとなることでの船体の耐用年数・安全性の懸念はありません。

(委員)

運用上、荷物を先に積み込み乗客を後に乗せるという順序であるが、寒いときなどは住民から不満の声が上がっている。人を先に乗せることができないか。

(事務局)

単胴船の場合、乗客の乗降と荷物の積み込みが同じ場所である関係上、安全面から、立ち席に乗客がいる中で荷物を積み込むのは難しいと判断している。新船となり荷物と客室が分かれる形となれば解消につながる見込みです。

(委員)

船の形は、きらめき・かがやきと同型と考えてよいのか。

(事務局)

仕様を示して入札等することから、受注した造船業者によって船体のデザイン・外観等は異なる可能性があります。

(委員)

コロナ対策として、換気・空調設備に関し、造船段階から特に設備・配慮する予定があるか。

(事務局)

アクリル板・抗菌処理・空気清浄などに関しては、当初の建造段階から設計に入れると費用が相当増

大することから、後付けでの対応を予定しています。

(委員)

現在予備船も含め6船で運用しているが、燃料高騰や船員確保など様々な課題がある。高速船で高馬力ということもあり燃費も悪く、各船の毎年の検査費用なども多額であるが、経費を抑えていく考えは。

(会長)

過去に航路改善協議会でも協議したところであるが、次の27鳥羽丸の折は代船建造できるかどうか難しい状況となっていると見込まれており、減船とともにダイヤ見直しが必要と考えられる。

(事務局)

新船就航の際には、航路改善協議会で議論したとおり、中之郷航路の廃止を地域に説明していきます。双胴船4隻の体制となり効率的に航路を回れる体制となることで減船と減便を考えていく必要があるもので、地域の中でもイメージをいただきたい。船員確保の関係上、離島始発を確保しようと思うとどうしても地域の協力が必要となります。また、島内の移送に関しても同様のことが言えます。離島航路を守る会のような温かい目で離島航路の未来を考えていただく会議の持ち方を考えていますのでよろしくお願いします。

(委員)

運賃に影響がなければ、双胴船とすることが望ましい。

○採決

挙手全員により、原案のとおり決定。

3. その他

(委員)

船員の待遇（拾得物の預かり方）に関し、住民の苦情があったので、船員への教育・指導を徹底いただきたい。また、佐田浜での荷物のやり取りにおいて不便を感じるので、管理・運用に問題ない範囲で、離島住民の利便向上・サービス向上を検討いただきたい。

閉会